

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200858		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里一静岡与一(1階・2階、2ユニット合同)		
所在地	静岡市葵区与一2丁目5-19		
自己評価作成日	平成27年12月31日	評価結果市町村受理日	平成28年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivgosvoCd=2294200858-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にありホームの前の川では鴨が8羽程泳いでいて、散歩道としてはとてものかな良い風景が見られます。又建物は日当たりが良く職員も朗らかで明るいのが自慢のホームです。その為か入居者のご家族、友人、親戚の方々が良く遊びに来て頂いています。ボランティアや地域の保育園、学校との触れ合いも増え行事を多く持つよう努力しております。また、ご利用者様のご要望を聞き、月に一度、季節に合わせた外出行事や外食行事を取り入れて楽しい生活ができるよう取り組んでおります。
27年度も昨年同様、施設の目標として、「今したい」をより一層叶える事ができるよう一人ひとりが生活していくの希望を聞き、できる限り叶えてあげたいという気持ちで職員一同努力中

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭では粋なカウボーイハットでロンリー外気浴に浸る男性利用者の出迎えがあり、全般に自発的な言動がみられます。現在職員数が足りなく派遣に頼っているため、正職員には責任感とともに緊張も走るなかりーダー的要素が育っていることが光明であり、もともと朗らかで意欲的なため新たな企画書提出に衰えはありません。特に目標に掲げた「今したい」を叶える個別支援では「〇〇食べたい」の些細なことから、「他県に～」との大仕事にも家族協力にて実現させています。また声掛けの改善と身体介助の標準化をねらいにロールプレイ訓練も実施、終了後にはレポート提出、1ヶ月後には個人面談と丁寧に支援して結果につなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」という理念に基づいて職員はもちろん利用者様にも生き生きとした生活が出来る様に支援している。また、「職場の教養」という冊子を活用して毎朝読み上げ気持ちを一つにするものとして役立っている。	朝礼では「派遣社員にも届け」と示唆し、会議でも触れて意識が続くよう管理者が努めています。「あれしたい」「これしたい」と進言してくる職員の姿から意欲の高まりを感じるとともに理念の実践が視えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園と交流をしている。町内会の行事に出来る範囲で参加をしている。散歩中に地域の方に挨拶をして声を掛けて頂いている。ボランティアによる大正琴、大道芸、マジックをする方々に来て頂いた。	もともと広い駐車場の利用について町内からの申し入れがあり、防災訓練や側溝掃除の集合場所として役立ててもらえるほか、祭りの山車の立ち寄りや運動会と地域行事に関わることが町内会長の尽力で叶っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等には出来る範囲で参加させて頂きボランティアの受け入れ等も行っている。また地域の防災訓練の避難場所として駐車場を提供したり夏祭りに参加して頂いた。町内会長が民生員を兼務しており役立つ事はアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、利用者様のご家族、地域包括、町内会長等、参加して頂き、運営していく上で貴重な意見を頂き取り入れている。	毎回必ず出席くださる町内会長が民生委員を兼務する稀有な状況にあります。それが事業所にとっては百人力となり、何かにつけ「地域住民、として扱ってもらえ、本年は全員の国勢調査をおこなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との担当者とは連絡を取っている。また、担当の地域包括には毎回、運営推進会議の案内と報告をしている。介護相談員も受け入れている。	遠慮して言えないことでも介護相談員には話せることもあって助けられ、年末紅白歌合戦を見ながら蜜柑を食べる光景が恒例となったこともその一つです。運営推進会議には市職員参加はありません。	市役所に運営推進会議への参加をお願いするとともに、難しい場合は議事録を報告として届けることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をうたっており、身体拘束をしてはいけない事を朝の申し送り、定例会議で話し合う場を設けたり、日々の生活で気付いた時は必ず注意している。本部でも研修室による教育活動が行われている。	「こういうことをされたいやだ」と自分の身になったらどうか？という考えで管理者が職員指導をおこない、まずは本人に尋ね選択してもらうことを心掛けています。法人の年間研修には係る研修が位置付けられ、また定例会議で話材にすることも定着しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議、朝の申し送り、本部研修室からの情報、ニュース等を日頃の話題にして職員の意識を高めている。介護の現場でも見過ごすことがないように職員同士お互いに注意して、話し合いに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは数名利用されている方がおり関係者とは定期的に連絡、報告をしている。また、これからも必要な方には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に必ず施設見学をして頂き、相談等も常に受け付けている。契約時、利用者様、ご家族に十分説明を行い疑問点、質問等伺いご理解頂き不安を無くしてから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、ホームに面会に来て頂くご家族が多い。定期的に面会に来て頂いておりその都度、ご家族からのご意見をお聴きしたり、近頃の様子を報告している。	「歯の具合が…」との小さなことでも家族に確認することから、家族会ナシ、運営推進会議参加は1組との状況でも親和的な関係が出来ていることが様々なエピソードから伝わり、管理者の携帯に直接コールもあります。	家族会若しくはそれに代わる機能についての是非を改めて検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見要望は常に耳を傾け定例会議等で意見をまとめ管理者はホーム長会議で代表者に要望を提出している。	アレコレやりたいことがあると、企画書に落とし込んでの話し合いが日常的にあります。中には出来ないこともあります。即座にダメでとはせずに代替案を管理者が提示することで次へのやる気を担保しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績、勤務状況を評価し社員表彰式を行ってやりがい、向上心をもって働けるように努めている。また年1回自己評価を行い、昇給等の参考にしている。今年度よりキャリアパスを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部に研修室があり、職員の力量を把握したうえで順番に研修を受けている。又、日々介護をしている中で其の都度指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、地域の交流会等で相談、情報交換をしてサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当日、利用者様の状況に応じて日中・夜間問わず職員増員し、声掛け、要望に耳を傾け、本人の安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学して頂き、ご家族の困っている事、不安なこと、利用者のケアについての要望等を伺うように必ず時間を設けて関係作りに努めている。入居後も生活の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設見学して頂き、ご本人様と面談を行い、アセスメントを作成して必要としている事を聞き、居宅サービスを利用されていた方は介護支援専門員に情報を提供して頂き、初期の対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち一人ひとりの役割をもって暮らしを共にしている。掃除、洗濯、調理、買い物など一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族の思いを真摯に受け止め、絆を大切に失礼のないよう良い関係を持つよう努めている。面会時、ゆっくりお話ができるよう居室や事務所などを利用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族様には馴染みの方や大切にされてきた友人等にも気軽に来て頂けるようお願いしており、面会に来られ居室で数時間過ごされたりホールで職員、入居者と会話されるご家族、ご友人もいらっしゃいます。	面会時間の制限はなく、19時から21時頃を定石として本人の居室で仲睦まじく寛ぐ家族もいます。友人や知人が差し入れをもってきてくれることもあり、リビングで職員も入って歓談することも珍しいことではありません。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に楽しく談話して皆様と関わり、その中で利用者様同士の関わりがもてるように努めている。近頃は1, 2Fの入居者の関わりも増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービス情報提供や相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望等を聞き情報収集に努めてサービスに生かしている。今年度も昨年同様施設目標として、「今したい」を叶える。を掲げておりかなり多くの希望を叶えることができている。好みの食べ物や好む生活が分かるようになった。	「あれ食べたい」はお楽しみメニューで反映させるほか、管理者自ら安倍川もちを買いに走ったこともあるほど「今したい」を日々実践しています。家族協力もあり念願だった豊橋の稲荷神社へ詣でた利用者もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅サービスを利用されていた方は介護支援専門員に情報を提供して頂き、把握している。ご家族にも今までの生活の様子を必ず聞き同じ生活ができる様努力して入居後の生活の変化を最小限にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中でそれぞれの生活を観察し、一人ひとりのできる事できない事を把握し、朝の申送り、介護記録等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会、カンファレンスでご本人、ご家族の要望等を職員間で共有し、アセスメント、モニタリングのための意見交換を行い、介護計画を作成している。	居室の担当制を敷いてはいますが、介助の統一をめざしてカンファレンスは全員の意見を聴取することを旨としています。また1表の意向欄には「本人が言ったままを書きましよう」ということが徹底されています。	「身体介助の標準化を進めたい」としていますので、是非センター方式『C-1-2 心身の情報(私の姿と気持ちシート)』の推進を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の経過記録表、バイタルチェック表などを記入記録し、気づいた点や変化がある時はその場で職員間で話し合い情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応して買い物や受診、自宅への送迎、娯楽等の支援を柔軟に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括の方や町内会長の方に参加していただき情報交換をしている。今年度より市の相談員にも参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、往診が月2回あり、往診の頃からの往診医を利用している利用者さんもいる。ご本人、ご家族の希望は大切にしてください。かかりつけ医に伝え、常にかかりつけ医とは連携を図り、往診の結果を面会時にご家族に報告をしている。	従来のかかりつけ医を続けているのは2名のみで、ほかは月2回の往診がある協力医に変更しています。また週1回入る訪問看護は協力医の傘下事業所のため連携が確かで安心です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回あり、バイタルチェックや状態の変化の報告を行い、状態の変化があれば対応して頂き、指示を受けている。必要がある時はかかりつけ医にも連絡して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況把握のために面会に行き、病院関係者とまめに情報交換を行い、必要に応じて病状の説明を医師が行う時は必ずご家族と一緒に同席させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り及び医療連携に関する指針を作成し、入居時にご家族に説明している。また重度化しつつあるご利用者様にはかかりつけ医とご家族に相談しながら全職員で状態の情報を共有して支援している。	本年のお見送りを含み開設以来3例の実績があります。契約時に方針を家族に理解してもらい、さらに2名のかかりつけ医には「看取りでは往診してもらえるか」との確認もしています。また若い未経験者には辛いことであると汲み、先輩職員たちでケアしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修室で基礎研修を受けている。また事故等の検証を行い送り時に、全職員に伝えるように説明をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。夜間を想定し夜勤者のみで避難訓練を行った。地域の防災訓練にも駐車場を利用して頂き参加している。	夜間想定でおこなったものの明確な打開策もなく、「(夜勤は)怖い」「大変」との心配が職員には残っており、近隣からの協力者を得ることが課題となっています。備蓄は飲料水や米があり、細目に差し替えています。	消防署職員の立ち合いを得て、夜勤帯の具体的な助言を集約することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その方の生活歴を含め言葉掛けには注意して声掛けをしている。本部での新人を対象とした基礎研修でも接遇について学んでいる。又ホームでも接遇についてのロールプレーなどを実施している。	派遣社員もいることで「それは困る」との言葉遣いも実際ありますが、都度管理者が注意しています。またロールプレイによる訓練も引き続きおこなうことを決め、「声掛け」、「言葉遣い」には時間を割いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューや外出先を決める際、必ず利用者様から意見を頂いたり買い物もご本人を連れて好みの物を購入するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はある程度あるが、一人ひとりのペースを優先し希望に沿って支援している。その日の体調などで食事の時間がずれる方が数名いる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされている方、数種類の衣類を見せて選んで頂きながら、お洒落できるように支援している。女性利用者様の入浴後の髪の毛を女性職員が行い綺麗にセットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを決めて頂いたり調理の下準備の手伝いや食後の片付けを楽しみながら出来るように支援している。また、毎食配膳前に1食分を写真に撮り見た目も一定のレベルになるように記録している。	煮魚に添える大根おろしにはシソの葉が敷かれ、缶詰使用が増えるなかリンゴは甘く煮て優しい味わいで提供されています。「職員によって差がある…」とのことでしたが、写真撮影が前進の力となっていると感じました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量等の記録をしている。また、食事制限のある方などの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアの声掛け、実施をして頂いている。必要に応じて職員が介助している。3時のおやつの後も行方がある。また、就寝前には義歯洗浄、消毒し保管している。食前には口腔体操を行い口腔機能の向上をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはトイレで排泄できるように排泄パターンを把握、記録して誘導している。また夜間帯などは状態の変化に応じてオムツ対応している。	観察して「いかに見るか」を通じた事前の声掛けで失禁を減らし、本人の羞恥心を応援しつつリハビリから布パンに向上した例もあります。ADL低下に因り3名が2人介助となっても「トイレ」を慣行しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供。また根菜や繊維質の食材を使用している。その他に散歩や体操等で適度な運動を取り入れている。朝の申送りですぐ排便があったのかを必ず確認している。それによりかかりつけ医から便秘薬の処方があり内服している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回の入浴を基本としているが希望に応じてそれ以上に入浴している人もいます。また、入浴剤を2、3種類準備して利用者を選んで頂いている。排泄で汚れてしまった時も優先的に入浴して頂いている。	2面から脚を入れることができる様式ですが、便宜上座椅子を置いているため1面となっています。重度化によりシャワーチェアが増えています。2人介助で足元に湯を張るなど“気持ち良く、に心配りがあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズム、状態、状況に応じて居室にて休んで頂いている。また居室内の温度や湿度に注意し、足湯やエアコンが嫌いな方は冬場は湯たんぽ等を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をいつでも確認できるようにファイリングしている。また薬変更時は目的、副作用等の申送りを連絡ノート等活用し職員に伝え、症状の変化が見られた時はかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事メニューや外出先を決める際、利用者様から意見を頂いている。日常生活の中で洗濯、食器拭きおぼん拭き手すり拭きなど役割があるがそれをする事を当たり前と思わずお礼を言ったり感謝の気持ちを現すことによりとても喜ばれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行ったり、駐車場を利用しホール等で活動、駐車場を利用し会話をしながら日光浴、買い物に一緒に行ったりしている。ホーム内のみの生活にならないよう支援している。月に一度は外出支援を取り入れ気分転換を図っている。中には個人的な希望でデパートへ行く人もいます。	どんど焼き、いちご狩り等月1回程度は季節に沿った外出があります。他にも子ども目当てでの公園散歩もありますが、総じて全員外出は職員主導であり個別外出で想いに副っています。町内会長が届けてくれる与一新聞を見て白髭神社に参ったこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者自身が金銭を持つことはしていないがご本人の希望等に応じて、ご家族と相談して支援している。又一年に一回位はご本人の好きな物を購入する為に少額所持して買い物に行く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し定期的に電話をされている方がいる。手紙も毎年出している人がいるのでその際は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに落ち着いて生活できるように職員の言動も含め環境を整えている。夜間はトイレ前にスポットライトがあり廊下の足元、居室ドア付近にはセンサー式のライトがある。外出時の写真や行事等の写真、工作物を飾っている。	華やかな造花やイーゼルと絵画、来客者への告知もラミネート加工され、お洒落な空間への配慮があります。耕作好きな人には庭を潰して畑とし、収穫物が本人の喜びを代弁しているかのようです。管理者自らモップをもち、時と場所関係なく清潔に注視しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごすテーブルの配置等を状況に応じて変えている。仲の良い利用者様同士居室でゆっくり話をする事もある。お一人でゆっくり過ごしたい時は居室に入ったり、1階のテラスで過ごしたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が作成した作品を飾ったり、今まで使い慣れた物や親しみのある物を危険がないように取り入れ、慣れた物が多い安心できる生活が出来るようにしている。仏壇を置いてお経を上げている方も何名かいる。	家族がマットを敷いたり、鏡台を持ち込み化粧用品を並べたり、また氷川きよしの写真が壁いっぱい貼られた居室もあります。一方でガランとした印象の部屋もあり、人それぞれの在り方を尊重しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面台、居室のドア等分かるように絵を飾ったりして迷うことなく自立した生活ができるように努めている。殆どの入居者は場所を理解できている。		